

国語科学習指導案

指導者 横浜市立いちょう小学校

T 1 : 渡邊 忠洋

T 2 : 齋藤 あい

1 日時 平成 25 年 11 月 20 日(水) 5 校時

2 学年・組 第 6 学年 1 組 30 名

3 単元名 『鳥獣戯画』を読む

4 単元設定について

子どもの姿

本学級の児童は、約 7 割の児童が外国籍、または、外国につながる児童である。学校では日本語、自宅では母語というように使い分けている児童も多く、日本語の語彙も少ない。

国語の授業では、教室・少人数教室・国際教室の 3 クラスにわかれて授業を進めている。学習内容がよりわかりやすいよう、体験的・視覚的な内容を多く取り入れながら授業を進めている。学習内容を理解できたとしても、その内容を文章で表したり、言葉で伝えたりすることが苦手な児童が多く、自分の気持ちを正しい文章で書くこと、正しい言葉で伝えることを大切に指導してきた。

視聴覚機器に関しては、普段の授業から電子黒板や実物投影機を使っているので、子どもたちも、電子黒板を使うことに関して抵抗は感じていない。子どもたちが実物投影機で映し出された自分のノートを使って、自分の考えを説明することもできる。

教師の願い

「鳥獣戯画」は 12 世紀に描かれたものであり、動物を擬人化している絵巻物である。動きや表情がユーモラスで、子どもたちが自由な発想をすることを期待できる。独自の解釈を伝える方法として、自分が選んだ場面について鑑賞文に表すという目的をもつことで、内容だけではなく、表現語彙、構成の工夫を明らかにして読む必要性が出てくる。その過程で筆者のものの見方に迫ることができる。さらに、鑑賞や評価は他教科や今後の生活場面でも触れる機会の多い言語活動であるので、身についた力を自己評価しやすいと思われる。

筆者の見方に迫りながら、日本の文化のすばらしさを知り、自分の考えを深める契機としてほしい。

また、電子黒板を使って「鳥獣戯画」を提示することで、言葉からは内容を理解しづらい児童にも、視覚的に理解させていきたい。また、実物投影機を使い、自分のノートを写し出すことで、自分の考えを伝える助けとしたい。

5 指導事項と言語活動

(1)指導事項

○目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 「読むこと」ウ

○本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

「読むこと」オ

・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 (事項イ - (カ))

(2)言語活動

○自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。

(言語活動例Cーイ)

本単元を貫く言語活動として、「自分の選んだ場面の鑑賞文を表す」ことを位置づけた。ここで取り上げる鑑賞文には、事実についての記述と感想、評価についての記述が必要である。教材文を利用して鑑賞文の表現の方法を学ぶことで、筆者のものの見方に迫ることができる。また、自分が選んだ場面を鑑賞文で表し、交流する過程において、考えを広げたり深めたりしながら、自分なりの見方を明確にしていくことができる。

6 単元目標

○自分の選んだ場面を鑑賞文に表すために、内容や要旨を捉えて読もうとし、友だちと交流しながら自分の考えを広げたり、深めたりしようとする。

○筆者の着眼点、感想・評価の言葉、表現の工夫を読み取って、自分が選んだ場面を鑑賞文に表し、友だちと交流することによって共通点や相違点に気づき、考えを広めたり深めたりする。

7 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①自分が選んだ場面を鑑賞文にして表したいという願いをもち、その課題解決のために絵と文章を比べて自分の考えを明確にしながら読もうとしている。 ②絵から読み取ったことを進んで伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	③筆者のものの見方や表現の工夫を読み取り、それを利用して自分が選んだ場面を鑑賞文に表しながら、自分の考えを明確にして読んでいる。 ④鑑賞文を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。	⑤自分の鑑賞文に生かすために、筆者の表現語彙や表現の工夫に関心をもちながら読んでいる。

8 テーマに迫るための手立て

研究主題

児童の主体的な学習活動を促すために、視聴覚・情報メディアを効果的に活用する姿を目指して

[電子黒板の活用]

- ・電子黒板に教科書の絵を拡大して提示することで、視覚的に見やすくする。
- ・画面をタップすることで簡単に拡大縮小する機能を利用し、児童が注目する場所を拡大して提示する。

[実物投影機の活用]

- ・ワークシートにメモをしたことをそのまま映し出すことで、自分の考えを安心して伝えるための助けとなるようにする。

9 指導計画(全5時間「読むこと」5時間) 本時 1/5

	学習活動と内容	指導の手だて(○)と評価規準(☆)
1 (本時)	・12世紀ごろに書かれた絵巻物を見て、関心をもつ。 ・「鳥獣戯画」の相撲の場面を自分なりに解釈し、筆者とのものの見方や感じ方の違いに気づく。	○自分の文章と比較することで、解釈は人それぞれであることに気づけるようにする。 ☆関心① 絵巻物に興味をもち、自分なりの解釈を説明している。
2	・絵全体の中でどの部分を取り上げているのか、取り上げた対象の何に着目しているのか(形、大きさ、色、格好)などの観点に沿って、文章と絵を照らし合わせながら読む。	○筆者が絵のどのような事実を根拠として解釈したり評価したりしているか、本文に線を引きながら考えられるようにする。 ○筆者の主張を捉え、自分の考えと筆者の主張を比べられるようにしておく。
3	・表現や構成の工夫てんを整理する。	○事実と感想・評価を区別し、感想、評価の部分に筆者の考えが表れていることに気づけるようにする。
4	・教材文を読んで、学習を通して新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめる。	☆読む③ 文章の構成、筆者の着眼点、感想・評価の言葉、表現の工夫を読み取っている。 ☆言語⑤ 筆者の表現語彙や表現の工夫に関心をもちながら読んでいる。

5	・自分の好きな場面を選び、筆者の表現を利用しながら鑑賞文に表す。 ・自分が書いた鑑賞文を紹介し合う。	○筆者の表現の工夫を掲示しておき、利用できるようにする。 ☆読む④ 鑑賞文を交流し、「鳥獣戯画」のすばらしさについて自分の考えを広げたり、深めたりしている。 ☆関心② 同じ場面を選んだ友だちと交流し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
---	---	--

10 本時の指導

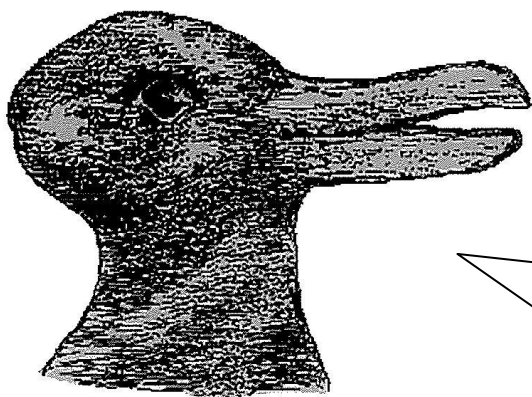
(1) 本時目標

絵を見て自分なりの作品に対する見方をもち、その考えを伝えることができる。

(2) 本時展開

学習活動と内容	指導の手だて(○)と評価規準(☆)	視聴覚機器
1 だまし絵を見て、自分にはどのように見えているかを発表する。 2 単元名「絵を読む」とはどういうことなのかについて話し合う。 ・絵は普通は見るものだよね。 ・「読む」ってじっくり見るということかな。 3 学習課題をとらえる。	○「だまし絵」を見ることで、絵をいろいろな見方で見ることについての関心をもつようにする。 ○人それぞれいろいろな見方があるということをおさえる。 ○「絵を読む」＝「絵に対して自分なりの見方をもつ」ということを確認する。	電子黒板 だまし絵① だまし絵② (画像の拡大縮小) (書き込み機能)
自分なりの作品に対する見方をもち、友だちに伝えよう		
・鳥獣戯画について知る。 4 絵を見ながら自分なりの見方を書く。 ・この場面はどこだろう。 ・動物なのに、人間みたいに見える。 ・この動物は何をしているのかな。 5 近くの友達と自分の見方の発表をする。	○「鳥獣戯画」について描かれた時期などを簡単に説明する。 ○ワークシートを用意し、自分が思ったことを書き込めるようにしておく。 ○まずは近くの友達と発表し合うことで、自分の考えを伝える練習をする。	電子黒板 鳥獣戯画 (画像の拡大表示)

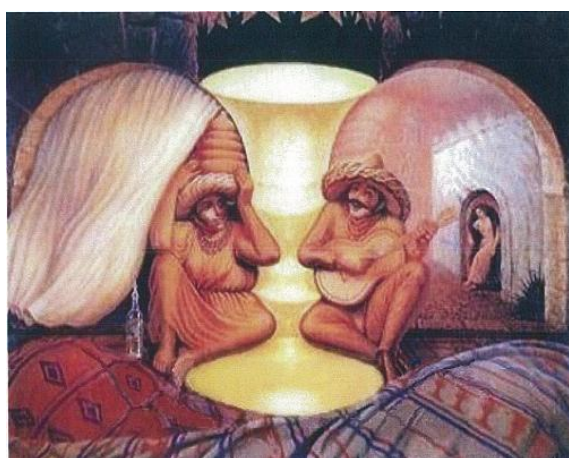
[画像資料]



だまし絵①

この絵はウサギと鳥に見える。

この絵からは、注目するところを変えると、ちがった見方ができることに気づかせたい。



だまし絵②

この絵は老人向かい合っている様子、テーブルの上に杯が置いてある様子、ギターを弾いて楽しんでいる 2 人の様子に見える。

この絵からは、全体的に見る見方、部分を拡大して見る見方によって、ちがった見方ができることに気づかせたい。



この絵からは季節や時間帯を読み取ることが難しい。場所、蛙や兎が何をしているのかを中心として自由に想像させたい。